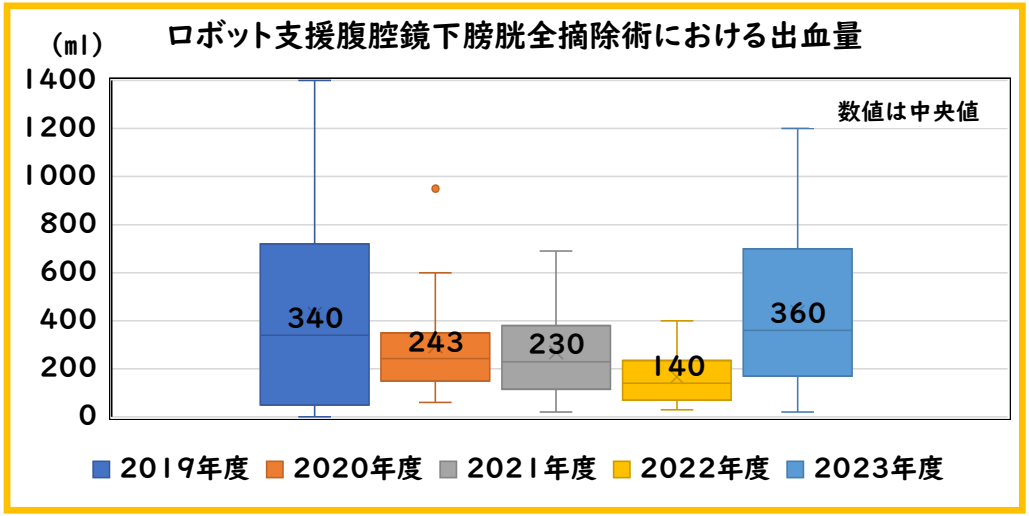
23 ロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘除術における出血量

腎臓外科・泌尿器科

◆解説◆

ロボット支援手術では拡大した良好な視野のもと、 繊細な手術操作を行うことが可能で、出血した際にも確実な結紮縫合ができ、開腹手術より出血量を抑えることができます。膀胱、前立腺（女性の場合は子宮と膣の一部）、尿道をきれいに切除でき、リンパ節郭清も確実にできます。出血は低侵襲手術の一つの指標となる項目であり、臨床指標項目になり得ると考えています。

◆当院の実績◆



◆自己点検評価◆

2020年度の出血量の中央値は243ml、2021年度の出血量の中央値は230ml、2022年度は140ml、2023年度は360mlと非常に少ない出血量で手術を施行することができています。

出血量の少ない低侵襲手術を安定して提供できていると考えます。

◆定義◆

腹腔鏡下膀胱性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)のオーダ症例における出血量